

2016年度から始まり、3年目となる「和歌山市水辺空間を生かしたまちづくり手法検討・調査事業」は1年目、2年目の取り組みで得られた成果や課題について、引き続きリサーチや社会実験の実施や多様な意見の交換、交流をはかったり、ゲストによるレクチャーを通して知見を深める企画を通して、これまで得られた成果や効果、課題についての検証を深めた。

さらに、3年間の事業成果や、これまで関わってもらった民間主体から挙がった意見を集約したものを「わかやま水辺プロジェクト - 水辺NEXT」としてまとめた。

かつて和歌山城の外堀であった市堀川を中心に、現在は分断されている「かわ」と「まち」をつなげることは、和歌山市に整備されつつある官民様々なプロジェクトを緩やかにつなげることができるだけでなく、市内外の人々にとって魅力にあふれた、住みたくなる、訪れたくなるまちづくりや、賑わいと潤いのあるまちづくりに資すると考えられ、中心市街地の活性化にも大きく寄与できると私たちは確信している。

3年間の取り組みを経て形成される水辺のまちづくりを推進する中間組織が民間の推進主体となってこれまでの成果を生かし、和歌山市や県と協働しつつ、市堀川周辺において水辺利活用の有用性について、地域関係者への理解と賛同を得ながら合意形成を図り、官民が連携したまちづくりが進んでいくことを期待する。

●現状把握

市堀川を含む中心市街地を中心に8つの項目に関する調査ヒアリング、分析を実施し、まちの現状把握に取り組んだ。

●プロジェクト推進の手法整理

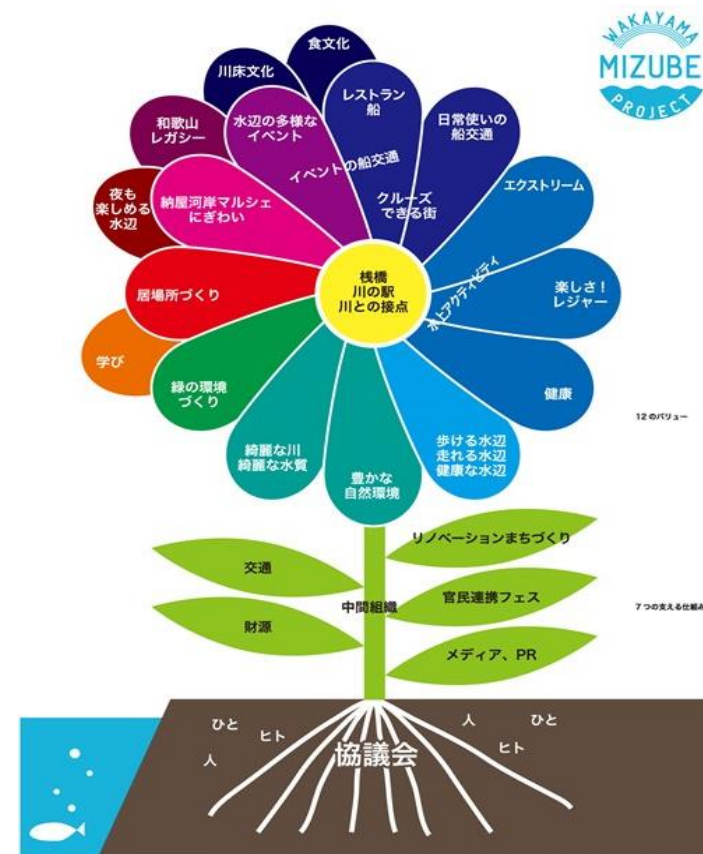
推進主体のあり方や考えを整理、事業推進の手法について、ヒントを得る機会として「ミズベ会議」を実施し、ゲストによる講演や事例紹介からキーワードをまとめた。

●市民協働による水辺のまちづくり

地域のステークホルダーや水辺に関心のある人、まちづくりに関心のある人、地域住民や行政関係者などに集ってもらい、肩書きを外した一個人として、未来志向で和歌山の水辺についてアイデアを出し合い、語り合う機会を「ミズベ会議」の中でつくり、ワークショップを実施した。



「わかやまに咲く水辺の花」大作戦



●水辺の賑わいづくりと利活用PRの社会実験「ワカリバ」の実施

前年度にまとめたタスクフォースや8つの仕組みを元に社会実験事業を企画。

賑わいづくりとPRのための拠点「MIZUBE COMMON」を仮設で整備し、約1ヶ月間の運営期間のなかでカフェ営業やマルシェ、音楽やワークショップなどの開催を通して周知をはかった。合わせて船着場や仮設テラス、ライトアップ実験も行い、利用者や協力事業者の声を広げ、調査も実施した。



- ミズベ会議の開催と協議会設立のための意見交換会の開催

前年に続いて「ミズベ会議」を開催し、講師による先人事例の紹介や事業推進のヒントを得るとともに水辺のまちづくりに関心を持ってもらうきっかけづくりを行った。また今後の目標のひとつである河川空間のオープン化に関する制度（規制緩和）の活用となる地域合意を図る協議会づくりのヒントを得るために、ゲストを招き参加者とともに「意見交換会」を行った。

- 水辺交流会の開催

社会実験の成果報告とこれからの水辺に対する社会的関心を高める機会の場合として「水辺交流会“わかやまミズベMEET UP”」を開催し、ゲストと共に社会実験の成果を検証し、これからの取り組みに活かすヒントを得た。



▲水辺交流会“わかやまミズベMEET UP”



▲ミズベ会議内で実施したワークショップ



▲意見交換会



▲水辺交流会“わかやまミズベMEET UP”

前年度にまとめた12のバリューと8つの仕組みを使い、社会実験で得られた成果や課題、達成度合いを検証し、引き続き社会実験による検証の必要性を確認した。

8つの支える仕組みと考え方	短期	中期	長期	2018.02時点の評価
A 棧橋、川の駅＝川との接点を維持する	水辺へのアクセスのノード ここからさまざまなアクティビティに派生			棧橋利用の事業参入を引き続き誘致するSUPは実験済み。 技術のいらないスワンボートの実証の設置。 MIZUBE
B 中間組織:事務局提案			推進していくためのPPPのエージェント	中間組織運営は、自立経営できなかった。かなり人件費、労力がかかる。これをどのように負担するのか、議論が必要。 協議会と中間組織は別組織のほうがいいのではないか？地域の合意形成と運営が一体的でないほうが、よいのではないか？
C 官民連携のフェスをおこなう	官民の連携のよい事例を積み重ねる ひとのつながりを作り続ける			民間と行政の仕事環境の違いが浮き彫りになり、相互理解に役立った。
D 内川ファンドを含めた財源の確保			内川ファンドを含めた財源の確保	占用料の扱いを検討し、地域の魅力創出活動の財源になることが望まれるが、テナントからの家賃収入、イベント収入がどの程度見込めるかは現状は不透明
E メディア、PRを推進	メディア、PRを推進			十分PR期間をもうけて、専任のPR担当者を設置できる状況がのぞましい。PR目線でのイベント立案が重要(もちまきて実証)
F 民間不動産の活用推進もおこなう	リノベーションスクール			水辺座などのリノベーションスクール案件ができて、水辺に関する関心の高まりがうまれた。引き続き水辺にあらたなコンテンツがうまれるように、周辺事業者との協働をすすめる。
G 交通を考える		レンタル自転車 駐車場 バス		京橋駐車場周辺に歩く人がいないことがあらためてわかった。また、イベント時に車線にはみ出す人の安全確保など、道路交通に関する課題が発見できた。これを解決するためには、より広範囲な中心市街地のなかの交通計画が重要であり、交通行政と連動して課題解決に取り組む必要がある。
H 協議会をつくる	やってみなはれの精神			周辺の住民への音の問題による負担があることがイベント期間中に判明した。これを解決するために、ルール作り、意識の共有などを行う機関が必要であり、それを協議会が担うのではないだろうか？

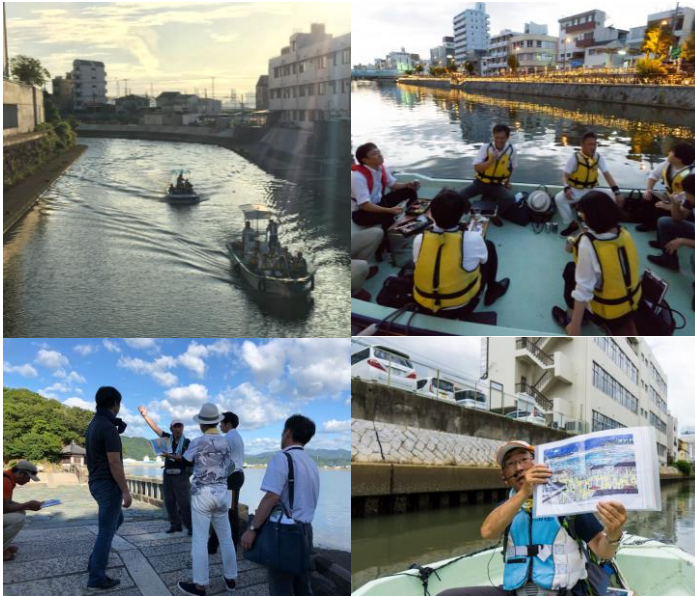
12のバリュー(価値観) 2018.02	短期	中期	長期	2018.02時点の評価
1 きれいな川、綺麗な水にしたい 豊かな自然環境にしたい (目標の修正が必要)	☆ さわれる	☆ 魚釣りが楽しめる	☆ およげる 流れがある	未達/継続 自分事に思っている人を増やし、全市民的な取組みへ成長させる必要がある。イベントをやることで意識を高めることはできた。
2 居場所作り	★ 椅子、本、ピクニック	★ サンドイッチもって 産れる	★ 子供が安全に遊べる立ち止まりたい場所	社会実験期間中は達成 運営者の思いが通り、人が寄りたくなる空間ができた。一方で、お店のための場所だと勘違いする人がいたこともわかっており、改善する必要がある。
3 クルーズができる楽しめる街にしたい	★ イベントの船交通	★	★ レストラン船などの 日常利用 日常使いの船交通	イベントの船交通は達成/ 達成したが課題がたくさんあった。今後は、船のルートの環境整備、船の係留場所の確保、BtoCではなくBtoBのパートナーシップを模索し、さらに継続
4 緑の環境づくり	★ 芝生の広場 食べられるガーデニング	★ 桜を植える 野花 食べられるガーデニング	★	芝生ひろばの有効性を立証 その他は未達 船コースの緑化は進めたほうがいいのではないか？
5 水上アクティビティがある街にしたい	★ SUP、カヌーなどの手 遣ぎ	★ スワンボート、貸し ボート	★ ウォーターボール ジェット、パワー ボート、外洋へ	SUPの実証 SUP体験を実証。経済性確保に 難があるが、コンテンツとしては ありえる。今後スワンボートなどを 実証する
6 納屋河岸マルシェのにぎわいづくり	★ 近似的なマルシェの もりあり	★ 日常的なマルシェ 開催 周辺の商業にも好 影響をあたえる	★	PR告知がきちんとできているものは、集客ができた。 継続実施によって、集客につながる 可能性があることはわかった。

12のバリュー(価値観) 2018.02	短期	中期	長期	2018.02時点の評価
7 歩ける水辺、走れる水辺。健康な水辺	★ 毎朝ウォーキング	★ ウォーキングをしたくなる環境整備 フットパスを町中にもつなげて整備	★ 日常でつかえる 水辺の道	未達/ ベビーダンスをやってくれた団体がいた。野天で貸出できるスペースがあると、ヨガやベビーダンスのインストラクターにとっては魅力的な空間になる可能性がある。
8 いろんなイベントがおこなわれる水辺であってほしい。	★ 花火、映画鑑賞	★ フェス、食フェス 水上パレード	★	イベント運営やイベント実施者への営業は手間と時間がかかり、中間団体にかなり負担がかかる。この人件費をどのように捻出するか、幅広い議論が必要に思える。
9 食文化が育まれる水辺	★ フードカー フィンガーフード	★ 川床	★ 社囃船	飲食店の経営を実施。継続運営されることで、その認知度はあがる。 一方、まちなかに客を送客できるようなコンテンツにはなっていない。 社囃小屋のようなコンテンツを試す必要がある。
10 和歌山レガシー	★ 来歴に沿った水辺のあたらしい姿	★ 来歴に沿った水辺のあたらしい姿	★ 和歌山の歴史とつなげる 来歴に沿った水辺のあたらしい姿	未達/ 来歴に沿った水辺の新しい姿の模索は、周辺事業者などと協調し、あらたな事業をつくりだす必要がある。そのための戦略作りをすすめる。水辺ビジョンに盛り込む。
11 夜も楽しめる水辺	★	★ 夜も明るい	★ 飲み屋、BAR	実施済み、継続実施によるファンが増えることがわかった。明るい伝統がともる風景が、安心感を生む。
12 学べる水辺	★	★ 学べる 学べる	★ 学べる	学びの機会が生まれ、提供する側も受ける側もどちらも満足度が高い。

2018年度は前年度に取り組んだ社会実験で得られた成果や課題を活かし、さらに検証を深めるための社会実験実施を軸に事業を進めました。

●観光舟運モニターツアー

調査事業として、観光舟運の事業性を検証するクルーズ&ウォークを実施し、観光や交通の事業者によるモニタリングを実施、ツアー内容やコンテンツの評価と課題を洗い出した。



●水辺の総合学習

水辺のアクティブラーニングとして伏虎義務教育学校の小学3年生を対象に環境学習を実施し、市堀川に生息する生物の紹介や環境観察、歴史解説などの授業をおこなった。

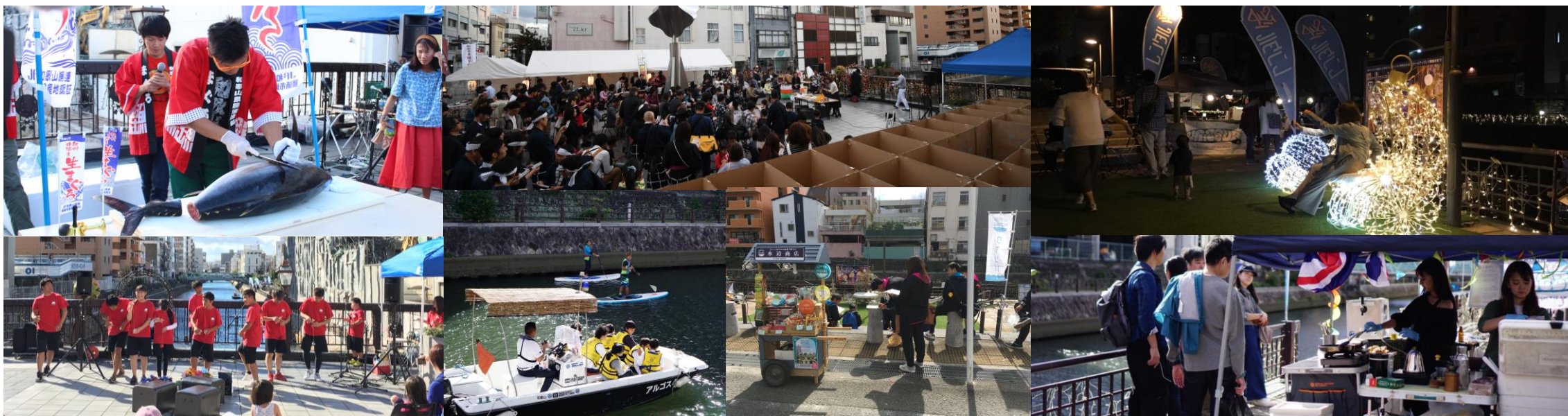


2018年度は前年度に取り組んだ社会実験で得られた成果や課題を活かし、さらに検証を深めるための社会実験実施を軸に事業を進めました。

● WAKAYAMA MIZUBE CHALLENGEの実施

社会実験事業として、水辺を様々な活動を表現・発表する場として、このコンセプトに賛同する団体や事業者と共に、水辺を賑わいと楽しさで溢れる場所としてPRするイベント「WAKAYAMA MIZUBE CHALLENGE」を企画し、開催した。

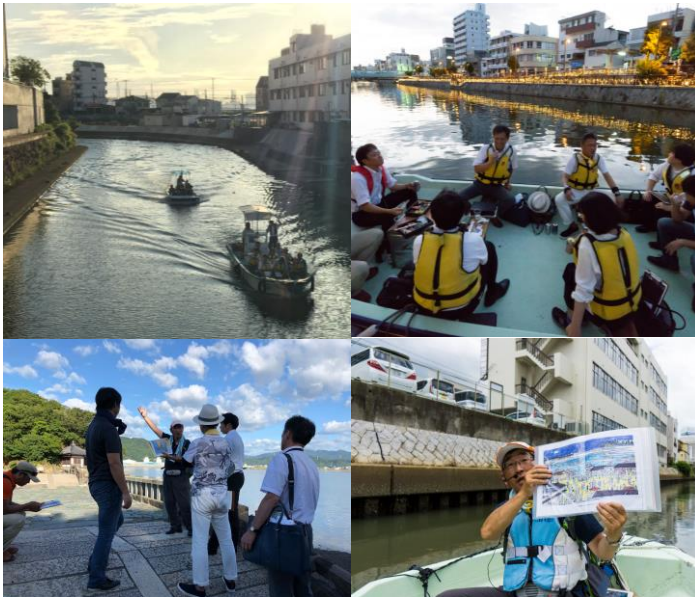
イベント当日は民間主催の別イベントも開催されており、PRなどの連携により双方の参加客に多彩な水辺の楽しさ、街中の楽しさを体験する機会を作ることができた。



2018年度は前年度に取り組んだ社会実験で得られた成果や課題を活かし、さらに検証を深めるための社会実験実施を軸に事業を進めました。

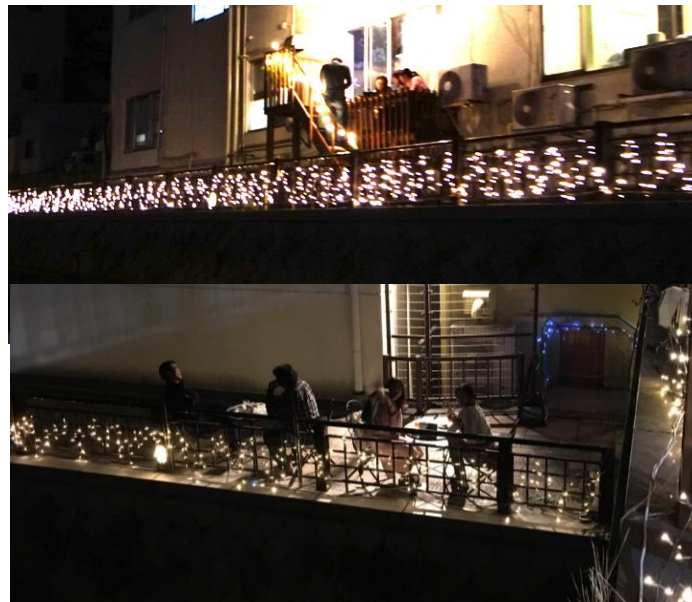
●舟運

3カ所の仮説船着場を周回運行するシャトルクルーズ、酒蔵見学と船上での食事がセットになったクルーズツアーを実施し、昼夜それぞれの乗船客から舟運に関する調査を実施した。



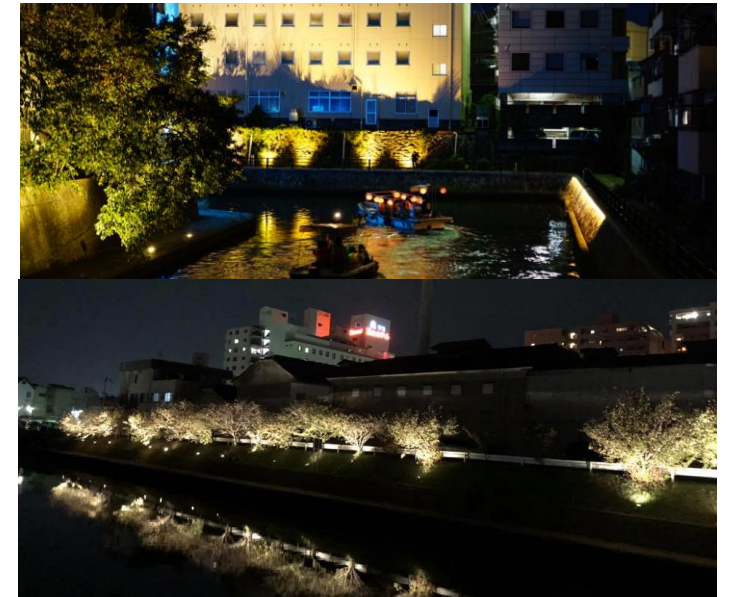
●地先利用

前年に続いて遊歩道や護岸の専用許可を受け、隣接する店舗事業者の協力により遊歩道上に椅子・テーブルを置いて外席として利用したり、仮設テラスを設置しての外席利用に取り組んだ。



●イルミネーション

照明デザイナーの協力を得て、市堀川沿いの桜並木や橋、護岸、建物の壁面などをライトアップし、船上や遊歩道、橋の上などから楽しめる新たな風景創出に取り組んだ。



前年度に検証した12のバリューについてさらに検証を深めた。

12のバリュー(価値観) 2018.02	短期	中期	長期	2018.02時点の評価
1 きれいな川、綺麗な水にしたい 豊かな自然環境にしたい (目標の修正が必要)	★ さわれる	★ 魚釣りが楽しめる	★ およげる 流れがある	未達/継続 自分事に思う人を増やし、全市民的な取り組みへ成長させる必要がある。イベントをやることで意識を高めることはできた。
2 居場所作り	★ 椅子、本、ピクニック	★ サンドイッチもって座れる	★ 子供が安全に遊べる立ち止まりたくなる場所	社会実験期間中は達成 運営者の思いが通り、人が寄りたくなる空間ができた。一方で、お店のためだけの場所だと勘違いする人がいたこともわかっており、改善する必要がある。
3 クルーズができる楽しめる街にしたい	★ イベントの船交通	★	★ レストラン船などの日常利用 日常使いの船交通	イベントの船交通は達成/ 達成したのが課題がたさんみえた。今後は、船のルートの環境整備、船の保留場所の確保、BtoCではなくBtoBのパートナーシップを模索し、さらに継続
4 緑の環境づくり	★ 芝生の広場 食べられるガーデン	★ 桜を植える 野花 食べられるガーデン	★ 芝生ひろばの有効性を立証 その他は未達 船コースの緑化は進めたほうがいいのではないかな?	SUPの実証 SUP体験を認証。経済性確保に難があるが、コンテンツとしてはありえる。今後スワンポートなどを認証する
5 水上アクティビティがある街にしたい	★ SUP、カヌーなどの手漕ぎ	★ スワンポート、貸しポート	★ ウォーターボール ジェット、パワーポート、外洋へ	PR告知がきちんとできているものは、集客ができた。継続実施によって、集客につながる可能性はあることがわかった。
6 納屋河岸マルシェのにぎわいづくり	★ 短期的なマルシェの もりあがり	★ 日常的なマルシェ 開催 周辺の商業にも好影響をあたえる	★	

これまでの社会実験欠課やプロジェクトの水位も踏まえて達成度合いを評価している。項目によっては目標設定の再評価や修正が必要なものもあった。



当初、12のバリューは将来への願望として描いたが、これまでの実績を踏まえ、目指すべき水辺の姿「12の目標像」として提言にまとめる

12のバリュー(価値観) 2018.02	短期	中期	長期	2018.02時点の評価
7 歩ける水辺、走れる水辺、健康な水辺	★ 毎朝ウォーキング	★ ウォーキングをしたくなる環境整備 フットパスを町中にもつなげて整備	★ 日常でつくれる水辺の道	未達/ ベビードンスをやってくれた団体がいた。野天で貸出できるスペースがあると、ヨガやベビードンスのインストラクターにとっては魅力的な空間になる可能性がある。
8 いろんなイベントがおこなわれる水辺であってほしい。	★ 花火、映画鑑賞	★ フェス、食フェス 水上パレード	★	イベント運営やイベント実施者への営業は手間と時間がかかり、中間団体にかなり負担がかかる。この件責をどのように捨てるか、幅広い議論が必要に思える。
9 食文化が育まれる水辺	★ フードカー フィンガーフード	★ 川床	★ 牡蠣船	飲食店の経営を実施。継続運営されることで、その認知度はあがる。一方、まちなかに客を送客できるようなコンテンツにはなっていない。牡蠣小屋のようなコンテンツを試す必要がある。
10 和歌山レガシー	★ 来歴に沿った水辺の あたらしい姿	★ 来歴に沿った水辺の あたらしい姿	★ 和歌山の歴史と つなげる 来歴に沿った水辺の あたらしい姿	未達/ 来歴に沿った水辺の新しい姿の模索は、周辺事業者などと協調し、あらたな事業をつくり出す必要がある。そのため戦略作りをすすめ、水辺ビジョンに盛り込む。
11 夜も楽しめる水辺	★	★ 夜も明るい	★ 飲み屋、BAR	実施済み。継続実施によるファンが増えることがわかった。明るい伝統がともる風景が、安心感を生む。
12 学べる水辺	★ 学べる	★ 学べる	★ 学べる	学びの機会が生まれ、提供する側も受ける側もどちらも満足度が高い。

12のバリュー(価値観)	短期	中期	長期	2018.02時点の評価	2019.02時点の評価
1 きれいな川、綺麗な水にしたい 豊かな自然環境にしたい (目標の修正が必要)	★ さわれる	★ 魚釣りが楽しめる	★ およげる 流れがある	未達/継続 自分事に思う人を増やし、全市民的な取り組みへ成長させる必要がある。イベントをやることで意識を高めることはできた。	目標の達成できた。その達成度合いを踏まえて、目標の再評価が必要に思われる。目標の再評価が、訂正された。
2 居場所作り	★ 椅子、本、ピクニック	★ サンドイッチもって座れる	★ 子供が安全に遊べる立ち止まりたくなる場所	社会実験期間中は達成 運営者の思いが通り、人が寄りたくなる空間ができた。一方で、お店のためだけの場所だと勘違いする人がいたこともわかっており、改善する必要がある。	本年度は、長期占用手を実施せず、居場所作りは行わなかった。広場周辺に向けて、設置を取りまとめた。
3 クルーズができる楽しめる街にしたい	★ イベントの船交通	★	★ レストラン船などの日常利用 日常使いの船交通	イベントの船交通は達成/ 達成したのが課題がたさんみえた。今後は、船のルートの環境整備、船の保留場所の確保、BtoCではなくBtoBのパートナーシップを模索し、さらに継続	観光事業者との船観光実験/ 高低差への道のりは依然あるが、事業者の可能性を感じていた。また、イルミネーションクルーズにも可能性があることがわかった。引き続き事業者と連携して環境と道運を改善、検証実施が課題。
4 緑の環境づくり	★ 芝生の広場 食べられるガーデン	★ 桜を植える 野花 食べられるガーデン	★ 芝生ひろばの有効性を立証 その他は未達 船コースの緑化は進めたほうがいいのではないかな?	SUPの実証 SUP体験を認証。経済性確保に難があるが、コンテンツとしてはありえる。今後スワンポートなどを認証する	本年度は検証実施は実施せず植える緑化について、調査を進めた。川沿いに植樹をプランターで設置する案の設置、維持管理コスト、緑の種類が判明し検証中である。
5 水上アクティビティがある街にしたい	★ SUP、カヌーなどの手漕ぎ	★ スワンポート、貸しポート	★ ウォーターボール ジェット、パワーポート、外洋へ	PR告知がきちんとできているものは、集客ができた。継続実施によって、集客につながる可能性はあることがわかった。	短日イベント、mizube challengeを実施ターゲットを子育て世代に設定し、安定的な集客を実現。Challengeを単日から複数日開催での効果を検証してみたい。
6 納屋河岸マルシェのにぎわいづくり	★ 短期的なマルシェの もりあがり	★ 日常的なマルシェ 開催 周辺の商業にも好影響をあたえる	★		

12のバリュー(価値観)	短期	中期	長期	2018.02時点の評価	2019.02時点の評価
7 歩ける水辺、走れる水辺、健康な水辺	★ 毎朝ウォーキング	★ ウォーキングをしたくなる環境整備 フットパスを町中にもつなげて整備	★ 日常でつくれる水辺の道	未達/ ベビードンスをやってくれた団体がいた。野天で貸出できるスペースがあると、ヨガやベビードンスのインストラクターにとっては魅力的な空間になる可能性がある。	実際に毎朝歩いて使っている人はすでにいる。フォローが増える状態にはなっていない。夜間集客の実験の結果、歩きやすくなったという意見もあり、今後のきかけづくりに期待。
8 いろんなイベントがおこなわれる水辺であってほしい。	★ 花火、映画鑑賞	★ フェス、食フェス 水上パレード	★	イベント運営やイベント実施者への営業は手間と時間がかかり、中間団体にかなり負担がかかる。この件責をどのように捨てるか、幅広い議論が必要に思える。	表現の場、発表の場として、水辺が認知されようかと実証された。利用者の満足度も高かった。イベントがあることで街の賑わいもあがり、主催者にも負担が軽減され、主催者になりやすくなる。イベントの企画も必要に思える。
9 食文化が育まれる水辺	★ フードカー フィンガーフード	★ 川床	★ 牡蠣船	飲食店の経営を実施。継続運営されることで、その認知度はあがる。一方、まちなかに客を送客できるようなコンテンツにはなっていない。牡蠣小屋のようなコンテンツを試す必要がある。	河川通商の優先利用の参加企業が増え、本年度は継続実施された。利用者の満足度も高かった。イベントがあることで街の賑わいもあがり、主催者にも負担が軽減され、主催者になりやすくなる。イベントの企画も必要に思える。
10 和歌山レガシー	★ 来歴に沿った水辺の あたらしい姿	★ 来歴に沿った水辺の あたらしい姿	★ 和歌山の歴史と つなげる 来歴に沿った水辺の あたらしい姿	未達/ 来歴に沿った水辺の新しい姿の模索は、周辺事業者などと協調し、あらたな事業をつくり出す必要がある。そのため戦略作りをすすめ、水辺ビジョンに盛り込む。	レガシーとは/ かつてのあり方から、未来へのヒントになる。伝統的建物をつくるだけでなく、過去の水辺と今の水辺のつながり、過去の水辺の思い出を今に伝えることである。
11 夜も楽しめる水辺	★ 夜間営業する*	★ 夜も明るい夜間 営業*	★ 飲み屋、BAR	実施済み。継続実施によるファンが増えることがわかった。明るい伝統がともる風景が、安心感を生む。	水辺の夜間 営業を意図した お店が増える 夜間営業の向上のためにイルミネーションの実験を実施。照明で水辺の雰囲気を変えていくことがわかった。この雰囲気を活かして、どういふまちにするべきか、議論を巻き起こす必要がある。
12 学べる水辺	★ 学べる	★ 学べる	★ 学べる	学びの機会が生まれ、提供する側も受ける側もどちらも満足度が高い。	子供連のアクティビティの機会として、水辺の環境整備の重要性を認識。子供が安心して触れられる環境を整える機会をつくる環境整備が長期目標。

前年度に検証した8つの仕組みの達成度合いをさらに検証した

8つの支える仕組みと考え方	短期	中期	長期	2018.02時点の評価	2019.02時点での評価
A 棧橋、川の駅=川との接点を維持する	水辺へのアクセスのノードここからさまざまなアクティビティに派生			棧橋利用の事業参入を引き続き誘致する。SUPは実験済み。技術のいらないスワンボートの実証の設置。	増水時に撤去をしなければならない棧橋ではなく、常設棧橋の設置の是非を議論することをすすめる。棧橋の管理運営について、維持管理をどうするのか議論をすすめる。これは、舟運やアクティビティ、環境学習の機運の高まりと並行してすすめる。
B 中間組織:事務局提案			推進していくためのPPPのエージェント	中間組織運営は、自立経営できなかった。かなり人件費、労力がかかる。これをどのように負担するのか、議論が必要。協議会と中間組織は別組織のほうがいいのではないか？地域の合意形成と運営が一体的でないほうが、よいのではないか？	中間組織運営は、まず都市・地域再生等利用区域の指定にむけた合意形成と推進組織のあり方を議論することからはじめる。中心市街地活性化の議論の一部として水辺が扱われることが望ましい。一方、地域の合意形成のあり方は、和歌山ならではの取り組みを模索。中間組織運営に行政が組織運営を円滑にするために関与することありうる。 *レファレンス>
C 官民連携のフェスをこなう	官民の連携のよい事例を積み重ねるひとのつながりを作り続ける	官民連携の受け持ち部署が決まる	全市民的な、官民連携の指針が生まれ部門間を横断になる	民間と行政の仕事環境の違いが浮き彫りになり、相互理解に役立った。	官側の担当部署がどこになるか、という議論を十分にすすめることができれば、民間は信頼関係を行政と構築することができない。また、水辺の魅力アップが中心市街地の活性化や観光活性化という所掌をまたぐ行政施策につながるため、市民の主体的なまちづくりの継続性のためには、部門間連携が課題である。
D 内川ファンドを含めた財源の確保			内川ファンドを含めた財源の確保	占有料の扱いを検討し、地域の魅力創出活動の財源になることが望まれるが、テナントからの家賃収入、イベント収入がどの程度見込めるかは現状は不透明	占有料だけでは、組織運営は難しい。他の収益事業とセットで運営することも検討する。また、民間の主体的なまちづくりを促すことを目的とした行政施策としての組織運営補助の検討もすすめる。
E メディア、PRを推進	メディア、PRを推進	企業が連携しPRにコミット		十分PR期間をもうけて、専任のPR担当者を設置できる状況がぞましい。PR目録でのイベント立案が重要(もちまきで実証)	電鉄会社がPRに協力してくれたり、芸能事務所が協力してくれた。民間が集積して、組織として、まちを代表しまちづくりをすることの強さを生かした、PRのあり方を模索し続ける。
F 民間不動産の活用推進もおこなう	リノベーションスクール			水辺座などのリノベーションスクール案件ができて、水辺に関する関心の高まりがうまれた。引き続き水辺にあらたなコンテンツがうまれるように、周辺事業者との協働をすすめる。	地先利用を通じて、事業者の水辺利用をさらに促進できる。地先利用ができる空き物件の把握、物件の整備、事業者のプロモーション機会創出、
G 交通を考える		レンタル自転車駐留場	バス	京橋駐留場周辺に歩く人がいないことがあらためてわかった。また、イベント時に車線にはみ出す人の安全確保など、道路交通に関する課題が発見できた。これを解決するためには、より広範囲な中心市街地のなかの交通計画が重要であり、交通行政と連動して課題解決に取り組む必要がある。	自転車利用/ *アンケートをとってみる。
H 協議会をつくる	やってみなはれの精神	ルール作り 透明性 責任ある運営		周辺の住民への音の問題による負担があることがイベント期間中に判明した。これを解決するために、信頼あるまちづくり活動には、地域へのルールの浸透と透明性、責任ある運営態度が大切である。り、それを協議会が担うのではないだろうか？	

8つの仕組みと考え方は具体的な任務「ミッション2019」として7つに再編した。

1. 規制緩和
2. 推進主体の形成
3. 地域の合意形成
4. 実践
5. ユーザーの認知度向上
6. 参入意欲の向上
7. 公共投資の検討、実現

- 7つの課題のうち、最初の3つ「規制緩和」「推進主体の形成」「地域の合意形成」は三つ巴の関係で、どれかが欠けても成り立たない。どれが優先ということではなく、同時並行で進めることが重要で、それにより、「実践」が生きてくる。
- 「規制緩和」「公共投資」のように行政が最終的に行うものと、「推進主体の形成」のように民間が行わなければならないもの、「地域の合意形成」のように行政と民間がともにおこなわなければならないものなど、官民それぞれに役割がある。いずれかが抜けても、これらの課題は解決しない。官民でともに取り組まなければならない。

水辺NEXTとは

3年間の取り組みで、たくさんの市民の方々と対話を重ね、そのなかから実現した社会実験の結果をもとに、和歌山の中心市街地における水辺のあり方を示したのが「水辺NEXT」である。水辺がよくなることで、中心市街地の価値を高め、和歌山市の人々の誇りにつながるものと考えている。

一方で、中心市街地の未来と水辺の未来は連動しており、水辺の未来だけをよくしようとするものではない。

水辺の魅力創出は中心市街地のあらゆる活性化の取り組みとセットの関係であることが社会実験でわかった。

たくさんの市民の方々と思い描いてきたものは、さまざまなプロセスを経て中心市街地の魅力創出の一環として実現されるべきものである。

「水辺NEXT」を描く目的は、水辺空間が利活用されることそのものにとどまらず、まちへの人々の関与のあり方に及ぶのではないかと考えた。

なお、この「水辺NEXT」は、行政だけの水辺の将来像ではなく、水辺をよくした方がいいと潜在的に思っている市民の皆さんが作りあげた将来像である。

「水辺NEXT」を生かしていくのは行政だけではなく、和歌山の人々である。

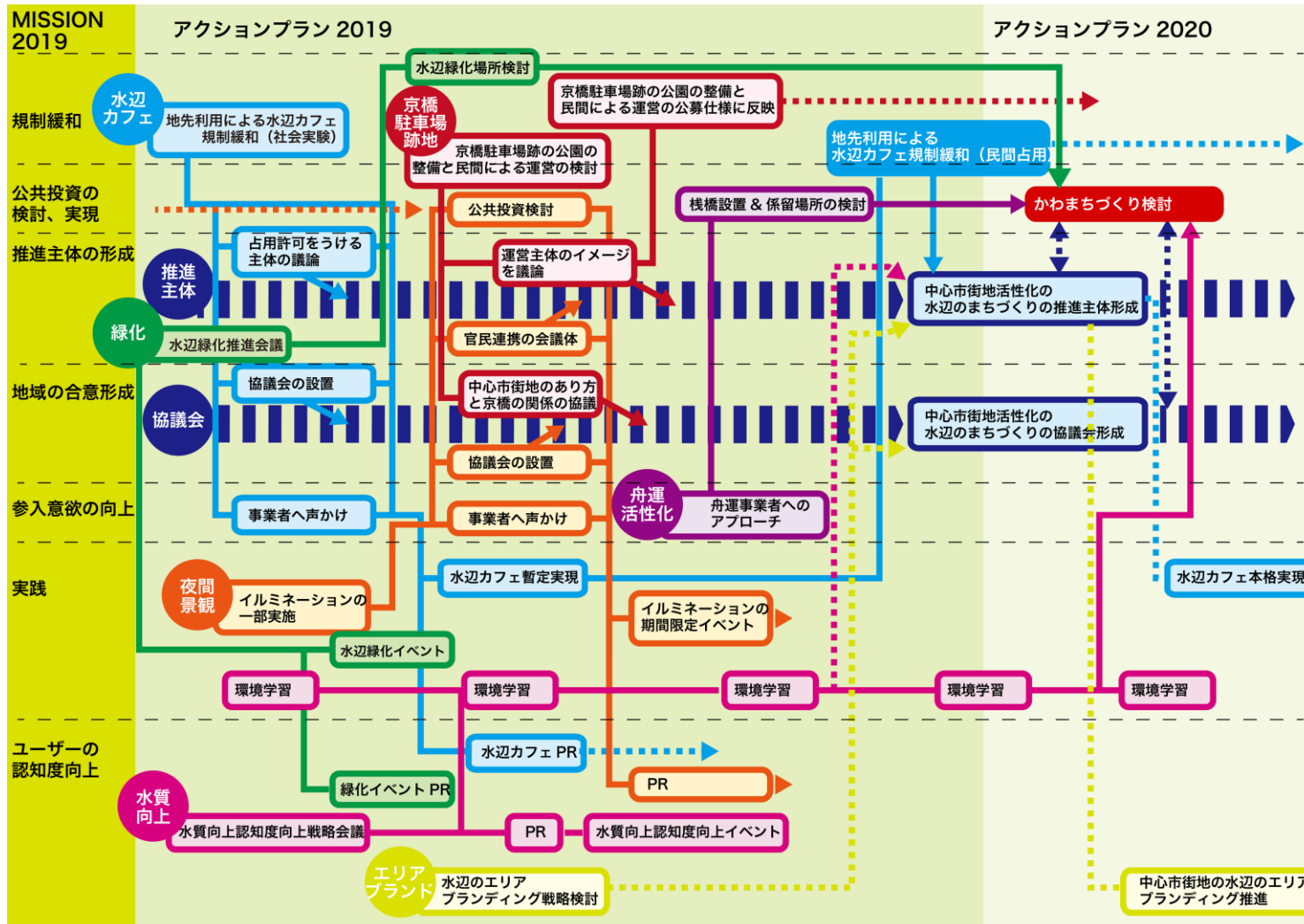
水辺を活かしたまちづくりを推進する目的

- ① 市民による創意形成の成功体験が得られること
- ② 市民の主体的な街中の賑わい創出、市民主体のまちの価値向上活動が活発になること
- ③ 新しい官民連携の仕組みができること
- ④ 市民による欲しい環境を作ることへの意識が高まること
- ⑤ 新しい自治の取り組みとして成長し、和歌山に定着すること

水辺空間を活かしたまちづくりで期待される効果

- ① 中心市街地における民間のまちづくりの主体育成につながる
- ② 水辺空間が魅力的になり、享受する人々の生活が豊かになる
- ③ 水辺空間を活かすことで、外部空間での滞在時間が伸び、歩くことが楽しいまちへの先鞭となる
- ④ 中心市街地に来街目的が増える
- ⑤ 魅力創出と発信によって中心市街地のブランド価値が高まる
- ⑥ 仮設実証型の都市経営を試すことができる
- ⑦ 観光や都市政策、教育政策との連携により、連携の実績が生まれる
- ⑧ 歴史性や地域の固性を意識した空間形成やコンテンツがつけられる
- ⑨ 民間による水辺を中心とした中心市街地への投資がよびこめる
- ⑩ 水への関心が高まり、水質浄化の機運が高まる

水辺NEXTで掲げるロードマップを実施するのは多様な主体である。民間主体の当事者性が大事であることは言うまでもないが、行政のコミットメントも大切である。
民間にしかできないことを期待した官民連携プロジェクトであるが、行政にも期待することも当然ある。



わかやま水辺プロジェクトによる「水辺NEXT」の提言を受け、和歌山市役所で実施・検討に値するものを「水辺ビジョン」と名付けて整理した。

	わかやま水辺 NEXT	わかやま水辺ビジョン
概要	わかやま水辺プロジェクトのワークショップ等に参加した民間主体による意見の集約	わかやま水辺プロジェクトの「水辺NEXT」を経て和歌山市がとりまとめたもの
主体	民間主体（2019年2月時点では、わかやま水辺プロジェクト実行委員会、今後拡大予定）	市役所
目的、位置付け	市民の自治による公共空間再生の実例をつくること	官民でつくってきた市堀川を中心とした水辺の目指すべき未来像
対象地域	中心市街地を流れる、市堀川、和歌川の河川空間、その背後地、中心市街地	同左
水辺の目標像	12の目標像	←応援
取り組みの目標像	(ミッション 2019) 1. 規制緩和 2. 推進主体の形成 3. 地域の合意形成 4. 実践 5. ユーザーの認知度向上 6. 参入意欲の向上 7. 公共投資の検討、実現	1. 水辺空間利活用促進のための仕組みづくり 2. 水辺の魅力向上と賑わいのあるまちづくり 3. 水辺の環境改善と親しまれるかわづくり
実施計画	地先利用による水辺カフェの実現	←応援
	推進主体の形成	←応援
	夜間景観形成	公共投資、実現
	京橋駐車跡地の公園についての議論	←議論をふまえ、仕様書に一部反映
	中心市街地活性化の主体形成	←応援
	舟運事業実現への準備	←公共投資の検討
	緑化	←応援
	水質浄化の機運醸成、認知度向上	←応援
	ブランド戦略策定	←賑わいのなかで実現

わかやま水辺プロジェクトによる「水辺NEXT」の提言を受け、和歌山市役所で実施・検討に値するものを「水辺ビジョン」と名付けて整理した。

策定の経緯と目的

和歌山城の外堀であった市堀川は、かつては泳げるほどきれいで、船や屋形船が行き交い、市場や夜店が開かれるなど、環境、歴史、文化に重要な役割を果たしてきました。しかし水質が悪化した高度経済成長期以降、川はまちの裏側へと押しやられる形となり、市民にも、隣接する建物にも背を向けられる存在でした。

しかし近年、水質が徐々に改善されたことで、水辺に価値を見出し、活用する機運が高まりつつある中で、2016年度から「水辺空間を活かしたまちづくり事業」として水辺が持つポテンシャルを生かすための活用方策の検証を官民連携により進めてきました。

シンポジウム、ワークショップ、小学生による水辺の環境学習などを実施するとともに、カヌーや遊覧船の運行、カフェ等の出店などの社会実験を通じて市民の方々の関心が徐々に高まり、民間事業者が継続的な水辺活用に興味を持つなどの成果がありました。また、市民の方々から様々なご意見をいただき、「水辺の12の目標像」と「市堀川の目指すべき将来イメージ」を取りまとめました。

この水辺ビジョンは水辺利活用の推進主体となる民間組織のあり方や、夜間を含めた水辺景観の形成や環境改善に向けた取組など、その方針を定めるものです。

住む人も、訪れる人も、笑顔であふれ、賑わう水辺を実現するため、このビジョンのもと、「市堀川の目指すべき将来イメージ」に向けて、官民一体となり進めていきます。

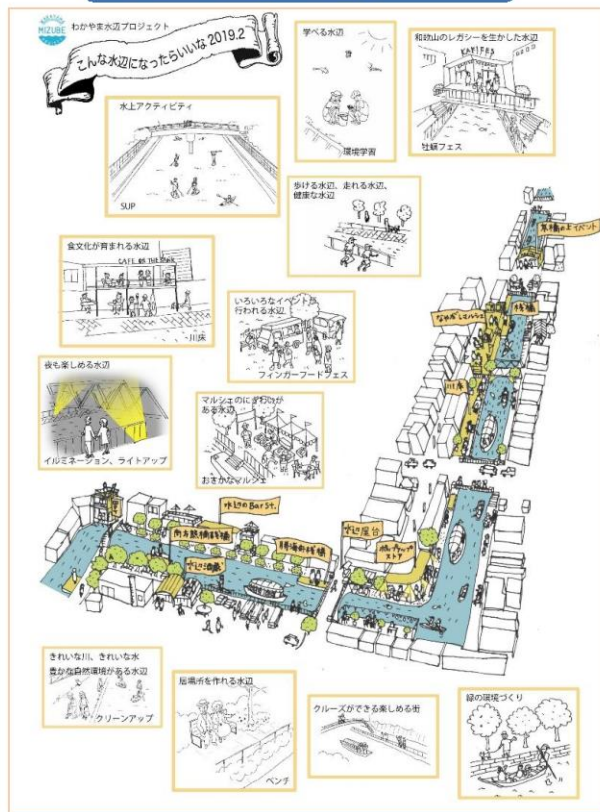
取組とその方針

水辺ビジョンの目指すべき将来像の実現のため、次の3つの取組目標とその方針が必要であると考えています。

取組	取組目標	取組の方針
取組1	水辺空間利活用促進のための仕組みづくり	(1) 民間事業者による河川占用実現のための仕組みづくり (2) 地域や利害関係者との合意形成を図るプラットフォームの形成
取組2	水辺の魅力向上と賑わいのあるまちづくり	(1) 民間主導による賑わい創出 (2) 夜も楽しめる水辺のまちづくり
取組3	水辺の環境向上と親しまれるかわづくり	(1) 水質改善への取組み (2) 緑化への取組み

これらの3つの取組目標と方針を定め、水辺を生かしたまちづくりを進めるとともに、将来的に「かわまちづくり計画」の策定へつなげ、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指します。

市堀川の目指すべき将来イメージ



水辺の12の目標像

わかやま水辺プロジェクトによる「水辺NEXT」の提言を受け、和歌山市役所で実施・検討に値するものを「水辺ビジョン」と名付けて整理した。

取組1 水辺空間活用促進のための仕組みづくり

(1) 民間主体による河川占用が可能となる仕組みづくり

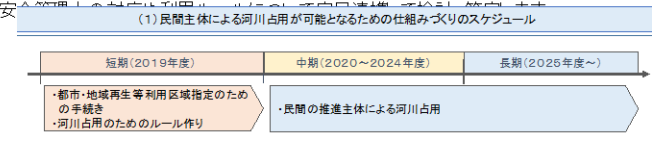
①都市・地域再生等利用区域の指定(県、市)

民間事業者が河川敷地において飲食店等の収益事業を行うことができる「都市・地域再生等利用区域」の指定を目指し、取り組んでいきます。



②河川占用に関する規約等の検討、策定(市、民間)

都市・地域再生等利用区域の指定による民間事業者の河川区域の活用において必要な安全・管理上の対応は、民間事業者が自主的に実施し、協賛事業者による河川占用が可能となるための仕組みづくりのスケジュール



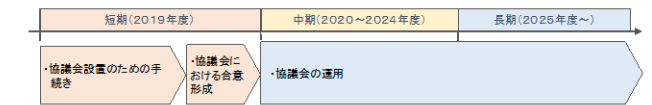
(2) 地域や利害関係者との合意形成プラットフォーム形成

①協議会の設置(市)

地域住民や利害関係者との合意形成を図るプラットフォームとして協議会の設置し、都市・地域再生等利用区域の指定のために必要な地域の合意形成を図ります。

②協議会の運営(市、県、民間)

協議会において河川占用についての利用計画の合意、占用主体に対する評価・承認などの協議を行う他、水辺の景観やまちづくりの整備推進に関する協議等も行い、将来的にはかわまちづくりの計画策定のための議論も行います。



取組2 水辺の魅力向上と賑わいのあるまちづくり

(1) 民間主導による賑わい創出

①民間の推進主体に対する支援(市)

「水辺ビジョン」に基づき民と民、官と民とのコーディネーターとしての役割を担い、賑わいづくりを主導的に進める民間の推進主体に対し、期間を限定し支援を行います。



②民間の推進主体による水辺活用に関する活動(市、民間)

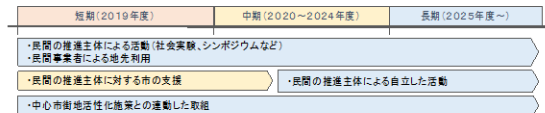
水辺のまちづくりに関する認知度向上や注目を集めることを目的とした取組を引き続き行うとともに、賑わい創出と収益性のある社会実験イベントを民間主導により実施し、事業者の参入につなげていきます。

③民間事業者による「地先利用」(民間)

市堀川沿いの遊歩道に机、イスなどを設置して利用する「地先利用」についてより多くの飲食店事業者等に活用してもらえよう民間の推進主体が窓口となって推進します。

④中心市街地活性化施策と連動した取組(市)

市堀川を中心とした水辺を活かしたまちづくり事業と和歌山城、新市民図書館や京橋親水公園、リノベーションまちづくりといった様々なプロジェクトの動きがあいまって、点が線でつながり、面的に広がることで誰もが楽しめるまちなかの実現を目指します。



(2) 夜も楽しめる水辺のまちづくり

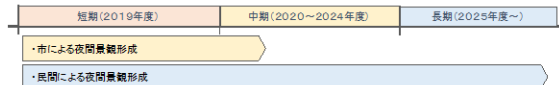
①水辺の夜間景観形成(市)

社会実験において利用者や地元から好評であった公共施設のライトアップを常設で実施し、和歌山城公園、市道中橋線や京橋駐車場の整備計画とあわせて、夜間も歩きたくなる、夜も楽しめる水辺のまち実現を目指します。



②民間事業者による夜間景観形成(市、民間)

公共施設等の夜間景観形成を契機に民間事業者においても、夜間の魅力づくりへの機運が高まり、民間事業者が自主的にイルミネーションやライトアップが実施されるよう取り組みます。



取組3 水辺の環境改善と親しまれるかわづくり

(1) 水質改善の取組

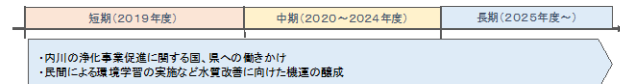
①導水事業などの水質改善に関する施策の促進(市)

内川(和歌川、市堀川、真田堀川、大門川、有本川)では浄化を目的とした紀の川総合水系環境整備事業を実施しています。今後も国、県に対し、内川浄化事業の促進を働きかけていきます。



②環境学習等による認知度向上の取組(市、民間)

伏虎義務教育学校の生徒に対する環境学習では、実際に市堀川の生物研究を行い、自主的に研究・発表を行うことにつながりました。民間の推進主体が学校等と連携し、継続的な水辺の環境学習の取組を行い、水質改善への機運醸成に努めます。



(2) 緑化への取組

①緑化のための整備等についての取組(市)

中心市街地の水辺に緑を増やすことで中心市街地の魅力がさらに増します。社会実験では京橋駐車場に滞留拠点に人工芝を設けたことで憩いの場として利用者に受け入れられていました。今後、緑化のために必要な整備等について、河川管理者等と協議を行っていきます。



②市民協働による緑化(市、民間)

緑化を進めるためには行政が直接植栽することだけでなく、公共用地に市民が植栽し、維持管理していただく仕組みづくりが必要です。今後は協議会等において、地元住民と協働した形での緑化の取組について検討していきます。

